10. HCV-DNAワクチンの検討

（消化器内科）徳重克年・山口尚子・飯塚愛子・
宮田裕子・清水健・木村知・石川賀代・小島真二・
西川瑞穂・春田郁子・長谷川潔・山内克己・林直諒

11. ループス腎炎における腎局所のマクロファージおよびMCP-1の関与

（第四内科）名取基子・湯村和子・内田啓子・
本田一徳・小林英雄・新田孝作・二瓶宏

12. 単純ヘルペスウイルス角膜炎に対するアンチセンス療法の研究

—HSV-1ウサギ角膜炎に対する効果—

（第二病院眼科）若松裕子・宮永嘉隆

座長 今西健一（微生物学免疫学）

13. 活性化したMBP特異的T細胞に反応するT細胞株

（神経内科）太田宏平・清水優子・市川久恵・
植田美加・秋山尚子・岩田誠

14. HBワクチン非応答性における抑制性T細胞の役割

（消化器内科）木村知・飯塚愛子・山口尚子・宮田裕子・清水健・
石川賀代・小島真二・西川瑞穂・関谷仁美・磯野悦子・
春田郁子・徳重克年・長谷川潔・山内克己・林直諒

15. γδT細胞の増殖因子について

（神経内科）清水優子・太田宏平・市川久恵・
秋山尚子・植田美加・岩田誠

座長 太田宏平（神経内科）

16. ヒト γδ 型 T 細胞によるピロリン酸系抗原の認識

（微生物学免疫学）田中義正

17. ベッチェット病 γδT細胞およびsubpopulation頻度

（第二病院眼科1，帝京大第二内科2）原田卓1・長谷英樹1・原里佳1・
氏原弘1・稲葉研吾2・宮永嘉隆1

1. 胚中心T細胞－スーパー抗原SEA投与後の経時的变化－

（第二病理学1，北里大・理・生体防御2）
藤田明子1・熊沢義雄2・笠島 武1
胚中心T細胞（GCTC）とは，B細胞領域のリンパ濾胞胚内に存在するT細胞であり，CD4陽性で，濾胞外のCD4陽性T細胞と機能的に異なる細胞群である。GCTCの胚中心反応への関与についてはいまだ不明な点が多い。マウスGCTCを中心にStaphylococcal enterotoxinA（SEA）を投与したマウスのリンパ節を組織学的に検討した。

C57BL/10ScSnマウスのfoot padに明白アルブミン（OVA）を投与し，2週間後にSEAを2μg投与1〜24時間後のリンパ節を組織学的に検討した。

SEAのリンパ節への影響と考えられる現象として，1）免疫組織染色TCRVβ3反応性の消失，2）T-zone T細胞の多数のapoptosis，を認めた。他に，GCTCに多数のapoptosisを認めたがSEA投与前と同頻度と考えられた。

2. ヒト異種移植におけるlong-term DSTの基礎的検討

（第三外科）早坂勇太郎・
藤田省吾・阿岸鉄三・太田和夫

[目的]Discordantな異種間膵器移植では，術後60分以内に生ずる超急性拒絶反応が最大の問題となっている。超急性拒絶反応の主な原因は，1）抗
ドナー既存/自然抗体、②補体の活性化（抗体非依存性）が推察されている。我々は以前より移植前
のレシピエントに抗ドナー既存/自然抗体の反応を特異的に阻害する抗イディオタイプ（同種/異
種）2次抗体の導入を検討し、報告した。すなわ
ち、術前にドナー全血を4週間投与し、long term-
DST (donor specific blood transfusion) を実施、
抗イディオタイプ2次抗体が導入されたラット
では、モルモット移植心 (discordant) が著明に生
着延長した。しかし、DST後に抗2次抗体が検出
されたラットは、わずか1/12匹 (8.3%) と少なく、
ヒトでの抗2次抗体の産生しやすく、などが問題
となった。今回、OKT 3やBMA 031など、異種
抗体を投与した移植患者血清で抗OKT 3/抗
BMA 031-イディオタイプ2次抗体を測定し、①
1次抗体の反応に対する抗イディオタイプ2次抗
体の阻害効果、②ヒトでの抗イディオタイプ2次
抗体の産生などに関して若干の知見を得たので報
告する。
（結果）①抗OKT 3/抗BMA 031-イディオタ
イプ2次抗体はヒト T 細胞に対するOKT 3/
BMA 031の反応を阻害した (in vitro)。②抗OKT
3/抗BMA 031-イディオタイプ2次抗体が検出
された移植患者では、その治療効果が著しく減少
し、抗2次抗体の阻害作用が示唆された。
3. 劇症型連鎖球菌感染症の発症機序の解析
（東京医大・中検・感染対策科1, 微生物学
免疫学2, 北里大・薬・微生物3, 花刺
医院4, 広島大・医・小児科5, 東邦大・
医療短6, 国保旭中央病院・内科6, 同・
麻酔8）
志賀雅幸1・今西健一2・関矢加智子3
秋山・藤2・加藤秀人2・八木浦2・
菊池辰夫4・山下直哉5・村井貞子6・
大江健2・清水可方8・戸塚茂一1・
内山竹彦12
劇症型連鎖球菌感染症は、ショック、歯部組織の
壊死、多臓器不全、DIC を呈する重篤な疾患である。
我々はこの疾患の発症機序解明のため患者か
ら分離された菌株について各種性状の検討を行っ
た。劇症型感染症由来菌株は、猩紅熱由来菌株に
比べてマウスに対して高い致死性を示すものが多
く、その代表的菌株を用いたマウス腹腔内接種実
験では腹腔内増殖速度が速くまた菌の血液への移
行も高度であった。また溶血毒性能はときに
Streptolysin O について劇症型感染症由来菌株で
高く、猩紅熱由来菌株で低かった。一方、モ、培
養上清のヒト単核球に対するmitogen 活性は、猩
紅熱由来株はすべて高い活性を示したのに対し
て、劇症型感染症由来菌株の活性が低いものが多くかった。
劇症型感染症由来菌株のマウスに対する強い致
死性とマウス体内での迅速増殖および、血液中への
高い移行性、高い溶血毒性能との関連性が示された。
4. B 細胞シグナル伝達における Ras/Raf-1/
MEK/MAPK カスケードのプロテインキナーゼ
およびプロテインホスファターゼによる制御
（第二病院内科 II）
川内喜代雄・森治樹
成熟 B 細胞は抗原受容体 (BCR) として免疫グ
ロブリン分子をその表面に発現している。今回、
我々は TNP 抗原特異的 IgM を発現する7.9B 細
胞を用いて、BCR 刺激後の Ras/Raf-1/MEK/
MAPK の活性化について検討した。7.9B 細胞を
抗原あるいはTPA で刺激すると rasGAP 活性が
抑制され、rasGAP 蛋白のチロシン・セリン、スレ
オニン残基のリン酸化が誘導される。さらに、抗
原あるいは TPA による刺激はRas/Raf-1/
MEK/MAPK の活性化を誘導し、Ras 活性化は
プロテインチロシンキナーゼ (PTK)、CD45プロ
テインチロシンホスファターゼ (PTP)、ホスホセ
リン/スレオニンホスファターゼ (PS/ThP) によ
り制御されていることを示した。Raf-1/MEK/
MAPK 活性化も同様に PTK、PTP 阻害剤に感
受性を示した。以上の結果は、BCR および TPA
刺激を介するシグナル伝達系に Ras/Raf-1/
MEK/MAPK が関与しており、これららは PTK、
PTP (CD45)、PS/ThP によって制御されている
ことを示唆している。
5. 発症早期の慢性関節リウマチにおける
HLA DR B1遺伝子の検討
（膠原病リウマチ痛風センター）